



ARTIST
NO
KOSODATE?

アーティスト
の
子育て

01 住まい 愛知県

02 年齢 40代

03 性別 女性

04 子どもの数 2人

05 子どもの年齢 15歳、1歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

今はしていません。

07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？
または過去に利用しましたか？☒ はい ☐ いいえ ※第一子のみ

二人目の子が今1歳5か月なのですが、3歳くらいまでは保育園には入れず、手元で育てようと思っています。ただ、あるシュタイナー保育園から私に仕事が回ってきそうで、その場合は、2歳半くらいから保育園に通わせるかもしれません。もし仕事が決まれば、保育士としてかわっていくことになると思います。

保育士の資格をお持ちなのですか？

はい。一人目の子は今15歳なのですが、幼い時にシュタイナー保育園に通っていてとてもよかったので、私も学びたいと思って保育士の資格を取ったんです。それから時々保育士として働きました。シュタイナー保育園はすごくクリエイティブで、フェルトの人形をつくったり、にじみ絵といって抽象的な水彩画を描いたり、手を動かすことが多いので、雰囲気もとても素敵なんです。そういう中で仕事をしていたので、自分も成長していったんじゃないかと思っています。作品も、それにつれてだんだん柔らかくなっていきました。

だから二人目の今回もあまり焦らず、今は内に貯めていく時期なんじゃないかと思って、外へ外へと表現しようという風に躍起にならないようにしています。でもそれがみんなにとって一番いいやり方なのではなく、制作を頑張れる人は頑張ればいいと思うし、そういう時期も必要ですね。

08 (07)が「はい」の場合、預け先は？

☒ 保育園 ☒ 通常保育 ☐ 一時保育 ☐ 認可 ☒ 認可外 ☒ 幼稚園 ☐ ファミリーサポートセンター
☐ その他

09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉

☐ 保育園や学校に行っている間 ☐ 睡眠時間を削る ☐ 子どもが寝てから ☐ 早朝 ☐ 実家・親に預ける
☐ 配偶者に預ける ☐ 仕事の合間 ☐ 仕事が休みの日 ☒ 捻出できない ☐ その他

はっきり言って、今子育てと制作は両立してないです。というのは、一人目の子に比べて、二人目の子はものすごい暴れん坊さんなんです。同じ人から生まれた子とは思えないくらいまるっきり違って手がかかるので、体力

勝負です。夜泣きもずっとひどくて、生活するので精一杯という感じが続いています。一人目の子は楽で、6か月以降はぐっすり寝てくれたんですが、二人目の子は夜中4、5回起きて、特に生後1年間は大変でした。もう私ボロボロで、起きている時も寝ることしか考えていませんでした。だからクリエイティブなことができる脳ではなくて、ご飯作ればまあいいかという感じ。

一人目の時は、子どもが寝たらすぐデザインしたり、簡単な絵を少しずつ描いたりしていました。まだ現役のアーティストでやっていこうという気持ちが強かったので、絵を描きたいのに育児に時間を取られてしまい、結局どちらにも集中できなくてイライラすることがありました。ただ、細切れに努力を続けて、かたちができたものもあったので後悔はしていないのですが、長い目で見ると、子どもが小学校に入って自分の自由時間ができ、集中して創作に向かうことができるようになってからの方が、結局は充実したものができました。

その経験から言って、いつかはそういう時期が来るだろうというのが分かっているの、二人目は、少なくとも保育園に入るまでの2、3年は、創作に精を出そうとギリギリするよりは、子育ての中から自分が学ぶこともあるんじゃないかなと思っています。一人目の育児の経験を活かして、体力的につらい分、精神的にカバーしている感じです。

**10 一日のうちで、①育児にける時間、②作家活動にける時間、③作家活動以外の仕事にける時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？
およその時間を教えてください。**

- ① 育児：0時間 → 18時間
- ② 作家：4～5時間 → 1時間
- ③ 仕事：8時間 → 0時間

11 お子さんをもった後、作品制作の環境(場所)は変わりましたか？

家で制作するというのは変わりません。でも、子どもが小さい時は寝ている時間にこそこそやるという感じで、学校に行くようになると、リビングルームやスタジオを作って制作するようになりました。以前は油絵もやっていたので、子どもが5歳くらいになっても画材は手の届かない高いところに置いていました。一人目の子はダメって言ったら触らなかつたんです。でも二人目の子は触るだろうな(笑)。なんでも口に入れるので。

12 お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？

テーマ自体は何も変わっていないと思うのですが、手段が変わりました。子どもが生まれる前はスプレーを使ってグラフィティをかいていた時期もあって、制作途中の絵を机に置いたままにしていたので、小さい子がいるとちょっと危ない空間でした。

子どもができて、シュタイナー教育とかかわるようになってから、自分の生活も意識して変えていき、作品もどんどん柔らかくなっていきました。例えば子どもが小さい頃は、寝ている間に絵日記をつけるような感覚で思いついたことを描いたり、手元にある封筒に描いたりして、時間をかけずさっとできるようなものをやっていました。その後、染物をベースにした作品に変わっていったのですが、生活している環境によって、ずいぶん作風は変わったと思います。

過去にオーストラリアでお住まいだった時期がありますが、子育て環境はどんな感じでしたか？

オーストラリアは景気がよいので、日本と比べて無料で行ける美術館やギャラリーがとても多いです。小さな子どもを連れて、公園に散歩に行くみたいに行けるので、敷居が低いというのはありますね。子育て中のアーティストがアートとつながっているために、毎週末にでも美術館に行くことができます。それから、交流仲間に、クリエイティブな子育て中のお父さんお母さんが集まっていたので、絵を描いたら見せ合ったり、家に行ったら作

品を購入したりする機会もあって、本格的に展覧会をしようというわけではないけれど、気軽にサポートできる環境だったと思います。

オーストラリアでは、育児における男女の負担の差について問題になっていましたか？

オーストラリアの方がフェミニズムが強いのと、私が一緒に過ごしていた人たちがたまたまそうだったということかもしれませんが、夫も育児にかかわるのが当たり前という考えの人ばかりだったので、そこまで不公平という感じはなかったです。私は授乳期間が長くて3年間授乳していたので、その間はやはり私の方が負担が大きかったかもしれませんが、その代わりお皿洗いは夫がするとか、日本と比べて過ごしやすい環境だったかな。あとは、日本に比べて女性が育休後に仕事に復帰しやすく、休んでいたことがハンデになりにくいかもしれません。

13 コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？

(該当しない)

14 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？

(該当しない)

15 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいますか？

相談相手はアーティストである夫です。今自分たちはインスピレーションを収集する時期だという認識で、今回はお互いゆっくり構えている感じです。

16 今現在、作家活動をするとしたら、どのようなことをやりたいですか。

☐ リサーチ ☒ 制作 ☐ 展示 ☒ ワークショップ ☐ アーティスト・イン・レジデンス ☐ その他

お話ししていて、作りたいなという気持ちがむくむくっと湧いてきました。子どもを見ながらでもできる範囲だったら、作品のパーツを少しずつ作ってもいいかなと思います。それらを実際に広げてつなげる作業はいつになるかわからないけど、発酵料理を仕込むような感じで、いろんな豊かな材料を作り始めたいなという感じです。下の子が3歳以上になってもう少し時間が取れるようになったらやりたいと思います。

アーティスト・イン・レジデンスは子どもが小学生以上になってもなお難しいでしょうか？

以前、私はFASのアーティスト・イン・レジデンスに参加するために、2か月間家を離れました。当時子どもは一人だけで、小学6年生になってしっかりしているので大丈夫だろうと思ったし、私は制作に専念できてとてもよかったんですが、その時ちょうど子どもには学校でストレスがかかることがいくつかあったようで、私が不在だったことが重なって、脱毛症になってしまいました。1か月くらいで治ったのですが、本当にぎょっとするくらいになったので、まだあんまり離れちゃいけないんだなと思いました。それがあって、今回二人目では慎重になっているということもあります。やはり小学生の子どもにも何かサポートがあったらいいのかもしれないですね。

**17 作品制作を継続するためには何が必要だと考えますか？
特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。**

☒ 家族の協力 ☒ ひとりの時間 ☐ 収入 ☐ 美術に関する仕事への就労 ☐ 仲間の存在 ☐ その他

まずはひとりの時間が必要。二つ目は家族の協力です。昔はお金がないとだめだと思っていたけれど、ある程度生活できればそんなに金もなくても制作はできるものだから。ただ、家族の理解がなければやはり継続は難しいです。

**18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。**

子育て中のアーティストにもワークショップを依頼してくださるといいですね。それがきっかけになって、自分の制作を考えられるかもしれないし。一般的には、夫が一生懸命外で働いて稼いでいて、自分は家で子育てに専念していると、制作という利己的な、自分のための作業は優先させづらいですね。結局それが生活費につながらないから。実際に、一人目の子どもの時にちょっと制作に没頭してしまい、お皿も洗わずに夫の帰宅時間になって、「いいね、君はやりたいことができる時間があって」みたいなことを何回も言われました。お金とつながないと、結局は趣味の領域になってしまうんです。

でも、きちんと仕事としてワークショップの講師を依頼されれば、たとえ少額の謝礼だったとしても、堂々と家で準備できるし、出かけても行けます。特に子育て中の女性にとってはありがたいことなんじゃないでしょうか。単発で短時間のお仕事だったとしても、仕事として周りから認知してもらえることは重要で、アーティストとして精神的にも支えられます。

それから、FAS に託児サービスがあったら本当に素晴らしいですね。アーティストというのがまさに仕事として認められたということが前提になると思うので。

他に、もしあったらいいなと思うのは、長期的な視点での展示の機会です。例えば子どもを産む前と、子どもが1、2歳で四苦八苦している時と、もう少し大きくなって自分の時間が取れるようになってきた時とで、作風がどのように変わっていったか、親になることでどのように内面的に成長したか、あるいはしていないかの変遷が追える展示ができれば嬉しいです。以前 FAS で展示した経験があるアーティストにも、一度展示したから終わりではなく、例えば5年後どんな作品を制作しているか、声をかけてくださることがあったら、今はこんな感じです、と喜んでお伝えしたいです。

19 お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？

今後変わるかもしれませんが、染物をベースにした居場所づくりがしたいです。